

平成 25 年 3 月 8 日

箱根山の活動状況についてのお知らせ

箱根火山対策連絡会議事務局（箱根町）

1 月中旬より大涌谷周辺で火山性の地震が発生しており、テレビや新聞などでも報道されています。住民の皆さんはもとより観光客の皆さんもご心配のことと思います。

その後、1 月上旬頃から続いていた山がわずかに膨張するような地殻変動は、2 月中旬以降、収まりつつあり、それとともに地震活動も落ち着いてきています。現在は、噴火を心配するような状況にはありません。

ただし、2001 年に発生した地震活動の後には、活動が始まって数カ月経過したのちに、新しい地熱地帯が出現したことがあり、今後、同様の現象がみられる可能性もあります。

今後も、気象庁及び神奈川県温泉地学研究所では、箱根山の火山活動を注意深く監視し、異常な変化があれば、すみやかにお知らせします。

なお、参考のために、本日（3 月 8 日）16 時に気象庁が発表した毎月定例の火山活動解説資料と、気象庁・温泉地学研究所による現在までの活動状況についての解説資料を添付します。

【本件に関する問い合わせ先】

箱根火山対策連絡会議事務局（箱根町総務部総務課 0460-85-9562）

運営支援グループ（気象庁横浜地方气象台、神奈川県（安全防災局危機管理部災害対策課、温泉地学研究所、県土整備局河川下水道部砂防海岸課、県西土木事務所小田原土木センター）、箱根町）

箱根山 2013 年の活動について (2013 年 3 月 8 日現在)

箱根山の火山活動は一時的に高まりましたが、落ち着きつつあります。

現在は噴火を心配するような状況にはありません。

気象庁・温泉地学研究所

○観測事実 (気象庁、温泉地学研究所の観測による)

2013 年 1 月初旬から微小な地震活動が観測され始め、1 月中旬頃からやや増加し始めました。その後、2 月 10 日と 16 日などにやや大きめの地震が発生しましたが、2 月 18 日頃からは地震活動が収まりつつあります。

今回の地震活動で、気象庁が情報発表に用いている湯本の震度計で震度 1 以上を観測した地震はありません。温地研が独自に大涌谷に設置した震度計では、これまでに震度 1～3 相当の揺れになった地震を合計 10 回程度観測しています。

今回の活動で最も大きな地震は、2 月 10 日 13 時 15 分の M2.3 (温地研による) の地震です。震源の深さが約 1.5km と非常に浅かったことから、その直上の大涌谷ではやや大きな揺れとなりましたが、規模が小さいために、少し離れた場所 (例えば芦ノ湖畔など) では、ほとんど揺れは感じられませんでした。また揺れを感じる場合でも、0.5～1 秒程度のきわめて短い時間です。これは火山性地震の特徴です。

今回の活動では、気象庁が湯河原に設置している体積ひずみ計や国土地理院が神奈川県西部や静岡県東部に設置した GPS 観測装置、温地研が箱根山に設置した傾斜計などで、箱根山がわずかに膨張していることを示す地殻変動も観測されています。ただしその大きさはわずかで、山体の傾斜変化は、1km の長さの物差しの端を 2mm 持ち上げたときに生じる程度の傾きで、山を見てその様子がわかるものではありません。

これらの地殻変動は、箱根山の深部 (深さ 7～10km 程度) に力が加わっていることを示しているものですが、2 月中旬以降、変化は収まりつつあり、現在のところ、マグマが浅い所へ上がってくるというような様子は見られていません。

上記の地震活動は深さ 0～4km 程度の浅い場所で発生しています。ですので、地震の原因はマグマの直接の影響ではなく、地下深部の変化の影響を間接的に受けたものです。

これらのことから、現在は噴火を心配するような状況にはありません。

ただし、浅い微小な地震は熱水や火山性ガスの上昇が関係して起きていることも考えられます。それらが、局所的でも地表に現れた場合には、注意が必要です。

○過去事例

小さな地震が短い期間にまとまって発生するような群発地震活動は、これまでも度々観測されています。

2001年以後、やや規模の大きかった群発地震活動は2001、2006、2008-2009年と2011年、それと今回2013年の5回です。このうち、2001、2006、2008-2009年の過去3回の活動の時には、今回と同様、山が膨らむような変化が観測されています。

この中では、2001年の活動が最も規模が大きく、今回よりも多くの地震が観測されました。また、地殻変動量も大きく、地震活動の期間中に大涌谷の蒸気井の暴噴が生じたほか、地震活動が終わった後に上湯場で噴気・地熱地帯の拡大などの変化が現れ、今も継続しています。

今回の活動は、2001年に比べると小さな規模です。

なお、山の膨張が観測された、2001、2006、2008-2009年の3回の活動とも、噴火には至っていません。

○防災対応

今回の活動が始まって以降、気象庁、温地研、神奈川県、箱根町などが情報交換を行いながら、注意深く監視を続けています。また噴火予知連絡会や内閣府なども活動の推移を見守っています。異常な変化があれば、すみやかにお知らせします。

現在の噴火警戒レベルは1（平常）です。もし、ガスの噴出や噴火等によって大涌谷にいる観光客などに被害がおよぶ恐れがあるような場合には、気象庁が噴火警戒レベル2（火口周辺警報）を発表することになっています。その場合は大涌谷周辺への立ち入りが規制されることになります。

ただし、現在は噴火警戒レベルを上げるような状況にはありません。